

子どもの目の健康を守りましょう！



3歳児健康診査
視覚検査について



公益社団法人
日本視能訓練士協会

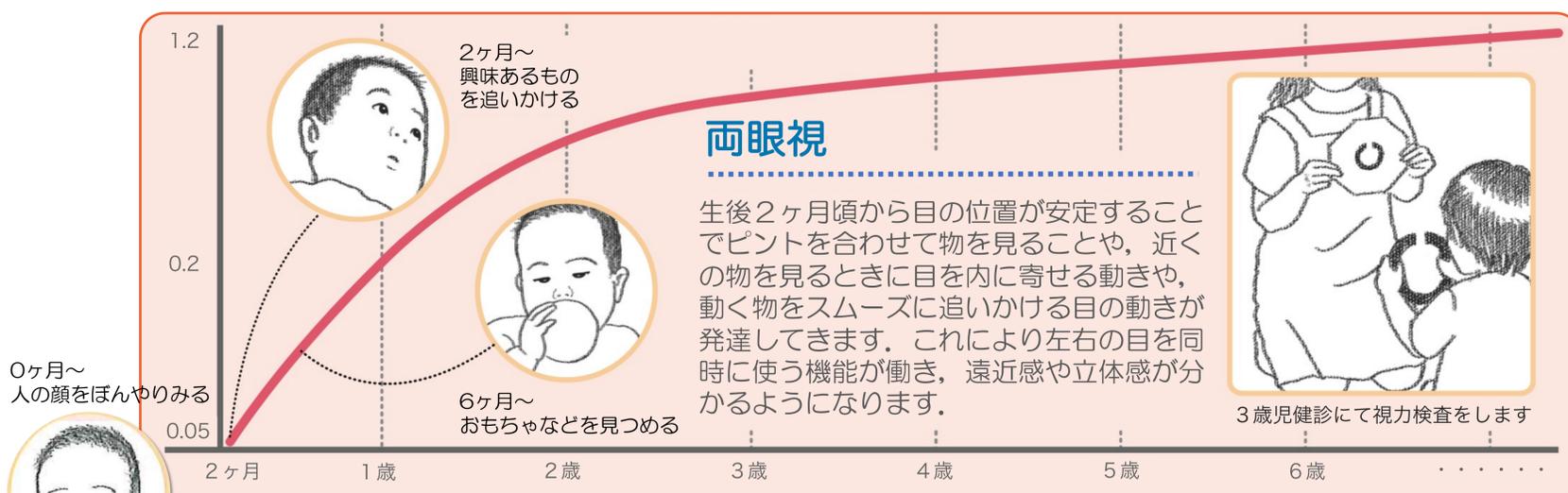
視覚の発達について

赤ちゃんは生まれてすぐから大人と同じようにはっきりした像を見続けることによって成長と共に“見る機能【視力】”が発達してきます

視覚の発達する時期は限られています

年齢が大きくなってから治療を始めても視力が育たないことがあります

〔視覚の発達曲線〕



視力検査は片目ずつしっかりと行うことが大切です

解説動画
「3歳児健康診査で行う家庭での視力検査」
(制作 | 日本視能訓練士協会)



弱視とは？

視覚の発達する大事な時期（生後から6歳くらいまで）に目の病気、強い遠視や乱視、斜視などのために「物をはっきりと見ること」ができないと視力の発達が遅れてしまいます

これを「弱視」といいます

弱視には片目の場合と両目の場合があります

弱視の種類

- ①斜視弱視 片方の目の視線がずれているため、ものをきちんとみていない
- ②不同視弱視 片方の目に強い遠視や乱視があり、像がぼやけている
- ③屈折性弱視 両方の目に強い遠視や乱視があり、像がぼやけている
- ④形態覚遮断弱視.. 先天白内障や眼瞼下垂などがあり、ものをきちんとみていない

片目の視力が悪くても、良い方の目で見えていて不自由がないので、行動からはわかりません

弱視の原因を早期に発見して
できるかぎり早く適切な治療を行うことが大切です！